

## 連載シリーズ 地下水は誰のものか？ ＜第1回＞

蛇口をひねれば、ダムで貯水された水を水源とした世界に誇れる適切な水道水が簡便に得られる日本の日常生活で、地下水が市民から忘れられようとしている。その背後で46億年の地球の歴史、200万年の人類の歴史で取り返しのつかない問題が引き起こされている。

全地球的に見ると21世紀は水問題の世紀といわれ、20世紀の石油に代わり21世紀は水が国際紛争の火種となると世界銀行は指摘した。

2003年日本で世界水フォーラムが開催されたが、日本は輸入品をとおして地球規模で水資源の浪費国であることが厳しく指摘された。また、地下水に対する市民、地方自治体、国など日本の現在の対応は決して世界に誇れるものでない。日本の地下水の問題についてフォーラムは玉虫色で終わったが、日本の国土で生きる我々一人一人は子々孫々、そこで生息するすべての生物に配慮し、決して綺麗ごとやいい加減ですまされない現況を直視し、地下水が誰のものかを考え、それに人間として責任を持って取り組んでゆかねばいけない。

この連載シリーズでは、秦野盆地の地下水への取り組みを一つのお手本として、あなたの足の下の地下水を考えなおしてみよう。



テトラクロロエチレンによる地下水汚染から名水復活宣言をした全国名水百選「弘法の清水」  
神奈川県 秦野市

### — 今後の予定 —

- 第2回 地下水とは？
- 第3回 水循環と地下水流域管理の必要性
- 第4回 秦野盆地の地下水利用の歴史
- 第5回 住民の関心がどれほど地下水保全に役立つか。  
～昭和40年代初めの状況 平塚市と秦野市～
- 第6回 秦野地下水盆の調査と法的根拠
- 第7回 地下水利用協力金
- 第8回 秦野市地下水保全条例
- 第9回 地下水盆の管理データベースの構築とシミュレーション
- 第10回 富士市(工事と水位低下)、三島市、清水町(柿田川) などの地下水
- 第11回 地下水は誰のものか

長瀬和雄(長瀬技術士研究所)